

上野再生計画

Project Redevelopment of Ueno Station

小川啓輔・柿沼康祐・武井美奈子

制作主旨

東京には魅力ある都市が集合しているが、その中でも上野は独特な雰囲気や異彩を放っている。それは、時代から取り残されたような雰囲気によるものと考えてよいのではない。歴史があるものは人に強く訴えかけるが、ただ古い、そしてそこに汚さを感じるようなものもある。もちろん歴史があることは悪いことではないが、今があってこそその歴史が必要だ。

上野には、人を呼び寄せる文化や伝統、歴史がある。しかし、今までのように過去を過去のままで受け継ぐことよりも、時代のテイストを取り込みながら育んでいくことが上野にとって新たな歴史となるだろう。上野をより魅力的にしていくには、進化しつづけること、その原動力をもつことが必要だ。

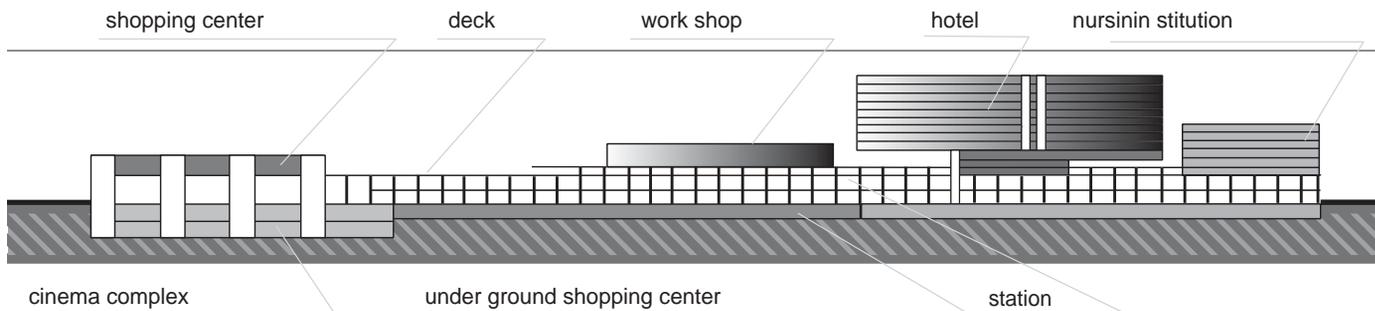
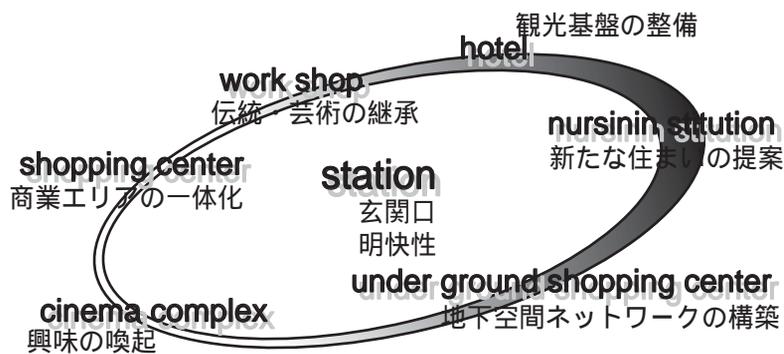
今の上野がもっている顔は尊重すべきで、配慮した開発をしていく必要がある。しかし、理想としての上野を実現させるためには、今までの伝統や歴史をもった顔をサポートする新たな上野の顔が必要である。その進化のきっかけを、駅という地域にとって拠点的な土地に生み出すことで、進化をとげ、さらに次の世代へとつながってほしい。そして、来訪者の多い上野の特性を活かして地域、地方、国をこえた人々に上野の試みを理解し、さらに興味をもってもらいたいと考えている。

講師評：根上彰生

最初から不安だった。大きいことをやりたい学生が毎年企画コースにはいる。が、大風呂敷を広げ、最後はまとまらない案も少なくない。

敷地面積は85ha、1日50万人が利用する上野駅である。周囲には上野公園、アメ横等々が個性を主張している。1000%程度のボリュームも可能である。多分もて余すだろうという不安は見事に外れた……とまでは言い切れないが、とにかくエネルギーに地域の現況を調べ上げ、複雑に絡まる条件を整理し、最後はとにかく形に纏め上げた。もちろん設計案には問題点も限りなくある。しかし、多岐にわたる要求に配慮しつつ設計意図を明確に示し、筋のとった作品に仕立て上げた力量とセンスは優れており、当初の予想を裏切ったのは事実である。

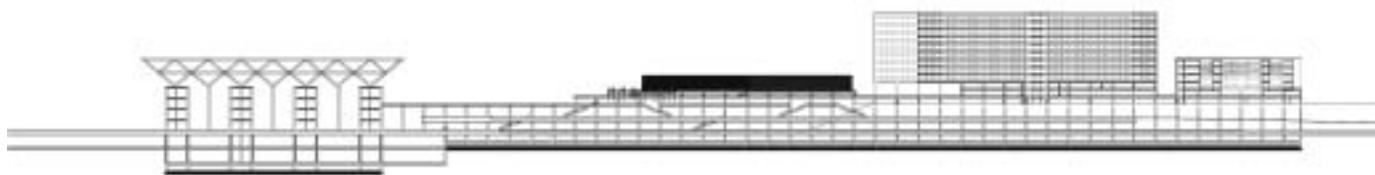
チームワークも抜群には思えなかったが、たまには期待はずれも良い。



ゾーニング



平面



断面